

◎リーダーをやってみよう

山岳会に入って、いろんな山に連れて行ってもらい、楽しい思い出もできた頃だろう。この辺で山登りの階段を一步上ろう。その良い経験がリーダーをやってみることである。

1. リーダーとは

「リーダーをやれ」と言われると、初めての人は一瞬引いてしまう。無理もない事と思う。山に行く時、連れて行くのと、ついて行くのではいろんな面で雲泥の差がある。しかし、後で振り返って見ると、ついて行った山行に比べ、連れて行った山行の方が交通機関から登山道の状況、眺望等を含めより鮮明に記憶に残っているのである。山行をいつまでも楽しい思い出として残すにはリーダーをやるのが一番の近道である。



◎リーダーの役割

リーダーも難しく考えると、新人等では荷が重く、身動きが取れなくなってしまう。そこで今回は最低限の約束事を守り、先輩たちのアドバイスを得られるという状況の中でリーダーを体験してみよう。リーダーとは言ってみればワンマンバスの運転手みたいなもの。運行計画表に基づき予め定めた行程を、ある程度時間を守りながら周囲の安全等確認し運行する。乗客の疲労度等もさりげなく見守り楽しい旅を演出できれば最高。具体的に何からやるのかを順を追って調べてみよう。当会では公開山行に3回以上参加した人がリーダーになれる。

①山行計画書の作成

この時、自由に行きたい山を選べるか、ある程度山城、山名等を指定されるかで条件は違ってくるが、山名選びが一番大変である。自分の知識を総動員し、先輩達のアドバイス等も仰ぎ、この峠を越すとあとはスムーズに流れる。

- ・山行計画書の上部の「目的」「山名」を記入：ルートは「山と高原地図」やその山の解説本を入手して調べる。これらの書籍は大切な宝物。増えて行くと今後の山行企画に大いに役立つので最初は金は掛かるが買い求めて欲しい。
- ・登山口までの交通手段：基本的には公共交通機関を利用する。これがやや厄介だ。しかし今はネットを利用すれば意外と簡単にルート、時間、運賃等がわかる。ネット環境の無い人は分厚い時刻表のお世話になる。車があると便利。
- ・日程及びコースを決める：これは「昭文社」の地図が便利である。いくつかある登山道から自分のレベルに合った登山道を選択する。不明な点は先輩や仲間たちに聞こう。新人の特権はなんでも聞けること。時を経ると聞けなくなる！
- ・概念図等を記入する：概念図は稜線を中心に手書きでも良い。地図の挿入が出来ればなお良い。緊急対応、関係機関の連絡先(県警、地元警察署は必須)を調べて記入する。
- ・参加者名簿の作成：CL欄に必要事項を記入。下山連絡先も調べて記入。特に必要装備等あったらメモ覧に書く。
- ・装備について：日帰り等の山行は記入されている装備で問題ない。テントの際は別途装備表をチェックしよう。
- ・計画書が完成したら、山茶花の「公開山行計画」に又「ホームページ」に掲載するために原稿を担当者に送る。

②計画書の取り扱い

- ・計画書が出来たら「日程及びコース」の見易い場所に○班回覧用、×切日、打合せ日をはっきり書いて各班に回覧してもらおう。×切日には必ず回収して参加者欄を埋め、打合せ時に配布又は印刷して持ってきてもらう。打合せで参加者の意見を聞いて不備等があったら修正し、山行計画書の参加者への徹底を図る。
- ・出来上がった計画書はメール(又は紙でも良い)で担当山行部員、下山連絡者に送付する。

③集合～山行

- ・集合場所には早めに行き、参加者のチェックを行う。未集合の人には電話して参加の有無を確認して出発する。
- ・登山口では軽くストレッチをして登り始める。リーダーは先頭を歩き、SLに最後を託す。時々後をチェックしてペース配分を調整する。30分くらいで衣服調整をし、後は40～50分で6～7分の休憩を入れる。この時参加者の状態を何気なく観察する。近隣の山は道標が余り無い場合が多く注意を要する。おかしいと思ったら必ず確認の取れる所まで引き返し、読図をする事。「もう少し行ってみよう」は痛手が大きくなるだけである。
- ・景色の良い所では立ち止まり、息抜きと眺望を味わおう。頂上では後続の参加者に握手で迎え、写真も取ろう。主要ポイントでは時間をメモっておこう。
- ・下りは状況にもよるが事故の9割以上を生む。足元を充分注意して歩くよう注意する。常に予定時間との差違をチェックしてバス便等の乗り遅れを常に心がける。



④下山口に着いたら

- ・下山したらまず「下山連絡先」に電話して無事下山したことを連絡しよう。電話が通じない場合は通じる所でかける。時間の余裕があったら、反省会等を開いて親睦を深めるのもいいだろう。遅くならないよう注意しよう。
- ・本山行の紀行文を書いてもらう人を決めよう。希望者がいなかったらアミダでも。

⑤山行が終了したら

- ・計画書を提出した山行部員に「山行報告書」を早めに提出する。この報告書を参考にする人もいるので、時間等は正確に、又ルート上の問題点等あったら、特記事項に、ヒヤリハット等は反省点の項に具体的に記入しよう
- ・写真等あったらメールで転送し楽しかった思い出を共有しよう。
- ・班例会では山行の内容を積極的に発表しよう。山茶花記事および、ホームページへの寄稿の有無を確認しておこう。

◎取敢えず、リーダーとしてやるべきことを簡単に書いてみたが、実際には奥が深い。でも経験を重ねる事により、いろんな事が身についてくる。もう少し山行レベルが上がってくると、問題発生時におけるリーダーの役割はより大きくなる。まずはリーダーを経験して、リーダーシップとは何かパーティシップとは何かを実践して頂きたい。又機会があれば本当の意味でのリーダーシップについて話したい。

